

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372301202		
法人名	有限会社 トータルライフケア		
事業所名	グループホームあゆみ		
所在地	熊本県 熊本市 南区 富合町 南田尻 471		
自己評価作成日	令和4年 1月28日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1
訪問調査日	令和4年 2月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「介護の3本柱プロジェクト」という認知症ケアの研修を取り入れ毎月1回外部講師の指導を受けながら事例検討を実施している。この研修では認知症介護・自立支援介護・口腔ケアを科学的根拠のもとに展開していく方法を学んでいる。また、当施設でも現在コロナ禍で施設行事や地域交流を思うように実施することができていない。それでも、入居者様に五感で四季を感じて頂きたく全職員で出来る方法を考え施設内での行事の充実や施設周辺での散歩等の活動に取り組んでいる。地域交流でも昨年11月の新型コロナ感染者数が一時的に減ったタイミングでサロンメンバーに集まって頂き「焼き芋会」を開催する等の地域交流の取り組みも行っている。また、弊社ではコロナ禍に対応するためICT化の促進を図っており対面しなくても会議等が行えるシステムづくりを導入している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは職員が自分の仕事に誇りを持ち、地域から選ばれる施設を目標に、研修の充実を図っている。毎月実施する研修、年間計画に組み込んだ研修、ケアに課題がある時必要と思われる研修を行っている。研修内容に応じて報告書の提出・外部講師による事例検討の指導・資料やマニュアルの使用等々、計画的に実施している。「介護の3本柱プロジェクト」という認知症ケアの新しい研修も取り入れている。職員が研修したことをケアに活かし、成功した喜びが職員の主体性や意欲の向上に繋がっている。コロナ禍の為、個々の利用者の一日のスケジュールに外気に触れ気分転換を図る時間を確保している。日光浴が出来る談話室の狭い場所を活用し、ハンギングバスケットやプランターに花を育て、日光浴をしながら季節を感じる工夫があった。地域を巻き込んだ防災に力を入れている施設の見学や家族会の再開など、取り入れてみよう、もっとできるという姿勢で努力していることが伝わった。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念に沿った10の約束の中から月に一回約束を実施した具体例と感想を書き、管理者を通して社長に提出をすることを継続している。	理念を着実に実践するために、全職員で考えた「10の約束」があり、こんなホームでありたいという職員の思いが込められている。職員は毎月、実践したことを記録で報告している。季節感あふれるリビングや、利用者の手伝いの後に必ずありがとうの言葉を伝える等、理念の実現に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃に参加している。地域との交流の場としても重要と考え積極的に取り組んでいる。他にも月1回の老人会の参加も行い、体操や脳トレなどを行っている。また、地域の方との合同の防災訓練も実施している。※現在、新型コロナ感染防止の為、中止になっている。感染状況をみながら再開を検討する。	コロナ以前は地域交流を積極的に進めていたが、感染防止のため、現在は出来ておらず、近隣の散歩中に挨拶を交わしている。季節に応じて地域の方から花や果物が届き、利用者が職員と一緒にお返しに焼き芋大会の焼き芋を届けるなど、日常的な交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方に集まって頂き、体操や脳トレ外出などを自主事業として開催している。(週に1回)※現在、新型コロナ感染防止の為、中止している。感染状況をみながら再開を検討中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の気持ちを生の声で聞くことができる。また、看取りについての話し合いも行き、たくさんのご家族から様々な意見を聞くことができ、看取りケアにつなげることができた。※現在、感染防止の為、書面での会議開催と意見交換を実施している。	運営推進会議はコロナ禍の為、書面で開催している。活動状況など、よりイメージしやすいように、写真を多く入れている。外部評価を受審するにあたり、自己評価のホームの実践状況を委員と家族に送付した。委員から自分の体験を交えた感想や地域住民として安心に繋がる事を期待する声など、内容の丁寧な読み込みから協力的な姿勢が伺えた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ネットワーク会議に出席し他事業所との意見交換を行っている。また、定期的に空室等の入居状況のお知らせをしている。	市担当者への質問や相談は、事前に調べて分からない際にファックスでやり取りする事になっており、迅速な解決につながらない事があった。地域包括とは日頃から気軽に意見交換できる関係を築いている。サロン利用者からコロナワクチンの接種について問い合わせがあり、地域包括に繋ぎ、本人から無事に接種を終えることが出来たという安堵する声が届いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中 8時～17時30分までは玄関を開錠。カンファレンスを通して身体拘束せず本人の思いを考え対策を立てるよう努力している。※現在、コロナ感染防止の為、来訪者の健康チェックを徹底する目的で終日施錠を行っている。	ホーム内の研修と身体拘束適正委員会の報告で身体拘束をしない意識の浸透を図っている。歩きたいが転倒のリスクがある利用者のカンファレンスを行い、家族とも相談し、ベッドを低くして床に緩衝材を使いクッションを良くした事例がある。また、帰宅願望の人には一緒に外出し気分転換を図り、拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行動障害、BPSDについてカンファレンスし対策を立て解決できるようにしている。また、社内での勉強会でも定期的に虐待について学んでいると同時にアンガーマネジメントについての講習も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を年に1回実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回の運営推進会議は実施することができている。現在は書面による開催をしている。毎回会議に対する意見を全員ではないが多くの方から頂くことができている。家族会は2018年の5月に実施したのを最後に実施できていない。	運営推進会議は家族の意見要望を聞く良い機会であるが、現在はコロナ禍の為、書面で近況や受診の経過、結果を報告している。その際、利用者の現状をそのまま伝え、利用者を良く知ってもらえるように努めている。窓越しの面会や電話の際に「何かありませんか」と尋ね、意見を言い易くしている。家族の意見は貴重であり、真摯に受けとめ、改善に繋げている。	家族に、利用者一人ひとりの近況を報せる写真の工夫があると、暮らしぶりやホーム内の活動がよくわかり、更に安心に繋がると思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議で意見や提案を確認する機会を設けている。可能なことは反映させている。	月1回の全員参加の職員会議は、各種委員会の決定事項の報告と、課題についての検討を行い、情報の共有を図っている。また、日々、実践の場でも意見が出ている。終末期の利用者に、気持ちの良い入浴支援を行いたいという職員の思いを会社に伝え、トリーバスの導入につながった。利用者は安全・安心・安楽な入浴に満足している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の整備ならびに労働環境の改善、各自の努力に応じた処遇を行えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度の構築と法人内外の研修に参加できる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームとしての同業者との交流の機会は、作れていないが、法人内の他職種との交流で質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネが情報収集を行い、職員へ伝達を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者とケアマネが相談・契約・初回プラン作成時に尋ねて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずケアマネが、ニーズの高いものをプランし、1ヶ月程度でプランしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを観察し役割を持って生き生きと生活して頂けるよう心掛けている。しかし、全職員が、全入居者にそのような関係性を構築できているわけではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできないことを、家族に説明を行い協力して頂くように努めているが、ホームへの来訪が多い家族とはその関係があるが、来訪が少ない家族への積極的介入は少ない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の希望に応じ、以前住んでいた家への訪問を職員同行のもと実施したこともある。また、ご家族の結婚式への参加も支援を行い実現できた。	コロナ以前は利用者一人ひとりに十分な時間をとって、レストランで食事をする、葬儀の参列、結婚式に出席する等、職員が同行し馴染みの人や場との関係継続を支援していた。現在は面会や電話などが主である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言語コミュニケーションが難しい方が多いため、利用者の代弁を職員が行い関わり合えるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は、看取り後、49日頃にご家族へ電話を行い、状況を尋ねてたが、現在は実施できていない。また、新型コロナ前は運営推進会議にご参加頂き看取り時のご家族の感想をお話して頂いていたが現在は会議が書面開催の為実施出来ていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉でニーズを表現できない入居者が多い為、日常の行動や今までの生活習慣などから予想している。	言葉で思いを伝えられない利用者は、日常の言動から思いの把握に努めている。地域の名前が良く出て来る、家族の心配をする等、言葉の一端から思いを把握している。年末にそわそわする利用者は家族の情報から年末に庭木の剪定の役割を持っていたことが分かり、家に帰りたい思いを推測し、後日、帰宅できるよう支援することができた。利用者の思いに寄り添う支援に努め、喜びや安心に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前任のCMから情報収集するとともに、本人、家族からも聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時、状態に変化が生じた時、または、半年から1年に1回全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の様子を家族に伝え、意向を確認することが多い。看取り時や体調が安定しない時は、訪問看護や医師の意見を取り入れている。	モニタリングは日常の観察や記録、職員の情報を基に3か月に1回、介護支援専門員が行っている。昔やっていたこと、出来ることを把握し、利用者の楽しみと役割を持つプラン作成を心掛けて、6か月に1回の見直しを基本としている。利用者の自信と感情を引き出すケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや、細かいケア内容の変更等の記録は実施し共有できている。しかし、ケアした結果を残していることが少ないこともあり、カンファレンス等で確認していることもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取りケアを実施している時、最期は自宅に連れて帰りたいと希望された時は、在宅サービスにつなぎ、自宅への訪問も実施しながら2日間過ごすことができた例がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生のボランティア活動の受け入れや、職業体験の受け入れも積極的に行い、入居者との交流も行っている。※現在、新型コロナウイルス感染防止の為、中止になっている。感染状況をみながら再開を検討する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞き選択してもらっている。看取りを入居時に希望される場合は連携している医師を紹介を行い選択してもらう。	かかりつけ医は利用者・家族の希望を尊重し、2か所の医療機関の月1回の訪問診療で対応している。専門医受診は家族の同行支援を基本とするが、家族の事情によって職員が同行支援している。休日や時間外の診療は訪問看護師に連絡し、指示を受けて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月曜日から金曜日は日中訪問してもらえるので少しの変化も看護師が把握しやすい体制をとっている。土曜日、日曜日、夜間も電話での報告がすぐできる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員とは入院直後から退院に向けての調整を行っている。入院中も病院へ様子を見に行き、看護師との情報交換も行っている。※現在は新型コロナ感染対策のため電話やZOOM等を使用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設内のケアだけではなく、地域資源の活用が必要と判断した時から事前に情報提供している。	入居時に利用者・家族に看取りを行う方針である事を説明し、意向を確認している。看取りの研修を年間計画に入れ、マニュアルに沿った研修を行っている。看取りに入った際は利用者の状態に応じて、今、必要なことは何か、その時の状態に合わせた研修を行い、職員の安心に繋げている。看取り後の振り返りを次に生かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の訓練を年に1回行っている。AEDの使用方法についてはフクダ電子より職員を派遣して頂き講習会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害を想定した訓練を年2回実施し、近所の方も避難時に協力要請することに承諾を得て参加してもらった。※現在は新型コロナ感染対策のため地域住民との合同訓練は中止している。感染状況をみながら再開を検討中。	加勢川と緑川の氾濫が心配され、大雨の際はアプリを確認して、空振りでもいいと考え、早めに避難することとしている。避難先は福祉施設のユートピアに協力を要請し承諾を得ている。利用者の輸送について順番を決め、シミュレーションを行っている。台風時は職員か管理者が残り、利用者の安全・安心を確保していた。地域を巻き込んだ防災に力を入れている施設を見学したいと考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほとんどの職員が適切な対応ができていいる。しかし、不十分なところは都度ケアリーダーもしくは管理者が指導を行っている。	権利擁護についてのホーム内研修を年1回実施して、人権尊重の意識を高めている。言葉使いは敬語を基本とするが、利用者が理解できる温かみのある方言を使い安心に繋げている。対応が不十分と思われる際は、職員がお互いに注意し合う雰囲気が出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定をしやすいような傾聴を行い、言語でのコミュニケーションが困難な方には、二者択一で表出できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴が施設のペースになってしまいがちである。しかし、少しでも入居者のペースに近づけるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でおしゃれをすることが困難な方には、ご家族の意見を頂いたり、その方の生活歴を職員が考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は入居者と一緒には行えていない。しかし、行事でのおやつ作りなどには出来る限り参加して頂いている。毎日の食事の内容は半調理済みのもを提供しているが季節の行事に合わせて季節のメニューの提供を行っている。	食事は外注であるが、利用者に少しでも喜んでもらうため、お節料理やクリスマスなどの行事食を月1回提供し、誕生日はケーキやマグロ丼等、好物を提供している。利用者に人気の団子汁を作り喜ばれている。	職員が一人でも利用者と同じ食事を取り、味付けや食べやすさなどを確認し、意見・要望等を業者に伝えていくとさらに良いと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化に合わせて主食の量の加減を行う。また、食事、水分摂取量を個別に把握し体温表に記録している。利用者の嗜好や能力に応じて個別メニューや食器を変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。ブラシでのケアが困難な方には、スポンジなどを使用し対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を個別に記録し、排泄パターンを分析。パターンを把握しトイレへの排泄誘導またはパット交換を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、状態に合わせた声掛け・誘導・見守りの支援や、適切な排泄用品を選択し、排せつの自立支援に取り組んでいる。介護の3本柱プロジェクトの研修で、排便の管理が出来ていない場合は利用者の体調不良や不穩に繋がる事を理解し、トイレで排便できるよう支援している。トイレの座位が安定し、効果のある姿勢を保持するため足載せの箱を準備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動だけでは困難なので水分コントロールを行い便秘予防を行っている。また、サンファイバー(食物繊維サプリ)を使用し排便コントロールを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自己決定が困難な入居者に関しては職員がスケジュールを作成し管理している。要望を尋ねることができる方には希望に沿って入浴して頂けるよう努力している。	風呂好きな人、一番風呂がいい人など利用者の習慣・こだわりや、また、体調が心配な時は調子のよい夕方入浴にする等、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴となっている。終末期の利用者に入浴の支援が出来るようにしたいという職員の思いから、トローリーバスの導入に繋がり、安楽な入浴を提供している。住民から届くしょうぶ湯を楽しむ機会もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて日中でもベッドで休息をとるなどの配慮を行っている。また、音や、照明、室温を個別に配慮を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬説明書をファイルし、当日の薬と一緒に置き、内容を確認しやすいようにしている。薬の準備時、与薬直前には2名で確認し誤薬防止に努めている。重要な薬の副作用については看護師や薬剤師に説明を受ける。また、居宅療養管理指導の導入を行い薬局との連携を強化できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から情報を頂いたり、本人様のその日の気分に応じ楽しみの支援を行っている。現在、数合わせ、パズル、風船バレー、歌、習字、園芸などを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望するところへの外出を行ったりしている。具体的には外食や、結婚式への参加、温泉、嗜好品の買い物など職員同行のもと実施している。また、花見などの行事の際は自主事業に参加されている地域の方やボランティアの方の協力を得ながら合同での花見を行っている。※現在は新型コロナ感染対策のため遠方への外出や地域住民との交流は中止している。感染状況をみながら再開を検討中。	コロナ以前は色々なところへ出かける機会を設けていたが現在は出来ていない。周辺の散歩や海を見にドライブする等の機会はある。利用者が少しでも気分転換が図れるように、利用者一人ひとりの一日のスケジュールに外気に触れる時間を確保している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居中の方はお金の管理が困難な為、施設にて預かり本人様の希望があればご家族にも相談しながら買い物をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在入居中の方からの要望はないが、ご家族からの要望があった時にはLINEでの動画通話を行っている。その際は職員も立ち合いスムーズなコミュニケーションがとれるようサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、その季節ならではのものを居間に飾るようにしている。また、その飾りも入居者と職員が一緒に作成するようにしている。	ホーム内の随所に飾った大小さまざまなお雛様が春の季節を報せている。テーブルには読み慣れた新聞や雑誌が置かれ、生活感があつた。談話室前の狭い場所に、ハンギングバスケットやプランターで利用者と職員が一緒に育てる季節の花が咲き誇り、心和む空間が出来ていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルと椅子とは別に、ソファを備え付けている。また、利用できる入居者が少なかった為、以前置だった部屋をフローリングに改装し、今では車椅子の方も気軽にくつろぐことのできる空間をつくった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていた家具を一部持ち込まれたり、家族との写真などを飾られている利用者もいる。	愛犬の写真を飾った部屋で、大好きな吉本新喜劇のテレビ番組を見てくつろいでいる利用者がみられた。また、荷物があると不穩になる利用者の居室はシンプルであるなど、一人ひとりの利用者が居心地よく過ごす居室になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から近い場所にトイレと洗面台があり迷うことなく利用することができる。建物に段差がなく車椅子での移動もスムーズに行うことができる。		